

大運動
「集中期間」

尾南地区大治支部と吉原町議

党員、日刊紙・日曜版読者の3課題で 前党大会時を回復・突破

庄内川をはさんで名古屋市中村区の西側に隣接する大治町で活動している尾張南地区の大治支部は、10月1日時点で、前党大会時を党員1人、「赤旗」日刊紙読者3人、日曜版読者2人上回り、3課題で大運動目標を達成しました。

支部とともに奮闘する吉原経夫大治町議のレポートを紹介します。



大治町議会議員としての約8年を振り返って

大治町議 吉原経夫

党議員空白を埋めるため、8年半前に大治町に引っ越してきました。その3ヶ月後の統一地方選で、多くの支援により、12位中11位で当選させていただきました。

しかし、党議員空白8年間などの影響は大きく、結集している支部員は一桁、日刊紙と日曜版の読者数も少なく、特に日曜版読者の有権者比率は名古屋尾張地域で最低でした。

そこで、まず議員活動や相談活動、町内会などを通じて強い繋がりをつくり、党員拡大に努めました。その結果、現在、支部員数は30名を超えるほどになりました。残念ながら、新入党員の全員が活動に参加できているわけではありませんが、確実に「戦力」となっています。党員拡大をしなければ、私は確実に選挙で落選していたでしょう。

また、機関紙拡大にも気を配り、議員になる前の部数よりも増勢しています。日曜版はまだまだ低い水準ですが、日刊紙は地区内の他の市町村と同じ程度の有権者比率になりました。

ビラの配布数も、支部員のみならず、居

住地党員や元党員などの協力を仰ぎ、担い手を組織して、4,000枚から全戸への配布規模の12,000枚へ増やしました。

選挙時の担い手の確保にも努めました。電話掛けの担い手は、10名ほど組織できるようにになりました。有権者名簿の書き写しとパソコンへの入力もできるようになりました。運転手とアナウンサーも自前で確保できました。

とにもかくにも、常に結びつきを強め、党員拡大を根幹にして、担い手になってもらえるよう、働きかけることに努めてきました。

また、年金者組合や新婦人の組織がなかったのですが、居住地党員などの協力で結成され、特に新婦人は、議会との懇談会を行うなど、町政の民主化に向けて頑張っています。

しかしながら、まだまだ弱い点も多々あります。後援会は、8年経ってようやく会長が決まり、動き始めつつあります。毎週出されていた読者ニュースは、休刊中です。SNSはまだやっていません。これらは今後の活動の課題だと思っています。